

せとうちちょう 議会だより

第138号

平成 22 年 8 月発行

発行 / 鹿児島県瀬戸内町議会 編集 / 議会報編集委員会 〒894-1592 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津 23 番地



奄美群島議員大会で提案理由の説明を行う
向野 忍総務経済常任委員長
(12 ページに関連記事掲載)



議会改革について研修を行う議会運営委員
(県町村議会議長会にて)



6 月定例会では口蹄疫問題支援策が議論さ
れました(4~9 ページに関連記事掲載)



経済活性化のため申し入れ書を緊急提出
(12 ページに申し入れ書掲載)

第2回(6月)定例会

こんなことを決めました……………	4 ページ
一般質問(6 名が登壇)……………	5 ~ 9 ページ
委員会活動……………	10 ~ 11 ページ
奄美群島議員大会・申し入れ書……	12 ページ
編集後記……………	12 ページ

こんなことを決めました

第2回(6月)定例会は、6月11~16日までの6日間の日程で開かれ、専決処分議案8件、補正予算議案3件、契約議案1件、条例議案3件、その他議案2件の計17件の議案を審議し可決しました。(主な議案の要旨は次のとおりです。)

一般会計補正予算 (第1号)

請島にゴミ処理施設

(小型焼却炉)を建設

特定離島ふるさとおこし推進事業費(加計呂麻島、請島、与路島の3島が対象)として、2億149万4千円。

特定離島ふるさとおこし推進事業の主な内容は、請島にゴミ処理施設(小型焼却炉)990万円、農道整備(請阿室、与路)1760万円、農業施設整備(請島に平張施設、諸鈍にビニールハウス)1885万円、畜産施設整備(加計呂麻島に堆肥舎及びタイヤショベル、与路島に牛舎)3055万円、漁港整備(秋徳)900万円、港湾整備(与路、池地、三浦)4300万円、集落内整備1330

万円、定住促進住宅(於斉)1847万円、特産品研究開発383万円、伝統芸能振興対策181万円などです。

また、緊急雇用創出事業で人夫賃金2071万円、山のガイド養成委託299万円など3213万円。里山林機能回復事業(枯れ松支障木除去町内一円)2000万円。

電算化に伴う除籍・改製原戸籍再生委託料1551万円など。総額2億6048万9千円を追加しました。

20m級屈折はしご付消防自動車購入契約

20m級屈折はしご付消防自動車を購入するもので(株)鹿兒島消防防災と9943万5千円で契約しました。

特別肉用牛導入基金の設置、管理及び処分に関する条例

畜産農家に雌牛導入資金の無利子貸付

↳ 口蹄疫支援策

口蹄疫の影響により肉用牛農家の経営が圧迫され、優良雌牛の導入が困難になることが予想されるため、資金助成策として、優良雌牛の導入農家へ一頭当り5万円程の無利子貸付を行うものであります。

損害賠償の和解

平成15年に「フェリーかけるま」にて発生した人身事故(負傷)に対して、町と被害者との間で和解(和解金9万2646円)が成立したことによるものであります。

臨時会

第3回臨時会が、6月29日に開催され、補正予算議案1件を可決しました。

一般会計補正予算 (第2号)

口蹄疫対策として 見舞金を支給

口蹄疫の発生により、5月のセリが中止となり影響を受けた畜産農家に対して子牛一頭当り1万円の見舞金を支給するものです。(6頭が対象)

また、ハブ買上数の増加に伴い800万円の追加。篠川集落内における裁判諸費用99万9千円、シールカヤック大会時の出演謝金50万円の追加などです。総額2121万6千円を追加しました。

一般質問

第2回定例会では、6名の議員が町政全般に亘り、議論を交わしました。一部を要約して、紹介いたします。

なお、一般質問の詳細については町立図書館にて「会議録」をご覧ください。



安 和弘議員

議員 自衛隊誘致について

陸上自衛隊の誘致については、瀬戸内町議会10名が1人残らず賛成の立場で積極的に取り組んでいるところであります。町商工会も誘致に向けて運動を展開しておりますが、町全体としての誘致の姿勢がいまひとつのようには感じられてなりません。いかがお考えでしょうか、伺います。

町長 陸上自衛隊誘致につきましては、定住人口の増加、地元消費の拡大等の経済効果が見込まれ、また地域防災の強化など多くのメ

リットが期待されることから、機会ある毎に要望活動を続けており、昨年度の新政権発足直後に総理、総務、財務、防衛各大臣及び衆参両議長へ要望書を提出しております。今後とも関係各団体と連携を図りながら、粘り強く誘致活動を進めて参りたいと考えております。

議員 仮に誘致すると、どの程度の規模・人員数で、場所はどのあたりを考えているのか。

町長 設置については、最終的には防衛省の意向に基づき行われるものであると認識しており、規模・人員数、場所等については、設置の具現化の兆しが見えてきた段階において調整を図っていくべきものと考えております。

議員 産婦人科・助産院の必要性について

人口減少が続く本町にとって出生率向上を図ることは喫緊の課題であります。20数年前には古仁屋市街地だけでも4、5軒の産医院、助産所がありました。現在は1件もありません。大切な生命の誕生を迎える場所が生活の拠点である地元になく、精神的、肉体的、経済的な苦痛のなか名瀬の方までいかねばならないという苦勞を強いられてもう何年になりますでしょうか。

ひと口に「医療事情」と諦めるのではなく、何とか解決策を見出せないものか伺います。

町長 ご指摘のとおり、産婦人科・助産院の必要性は、妊婦さんの諸々の負担軽減、出生率の改善等からも切に感じていますが、産科医師、

助産師確保や新たに設備投資をして経営的に成り立つかなど検証しなければならず、町立へき地診療所の設置者としては、累増する赤字を解消すべく医師、職員等の減等により健全経営に努めているなか、産科医・助産師の確保は困難と考えております。また、少なくとも民間において、健診体制はできないか医療機関へ諮ってみたいと思います。



向野 忍議員

議員 口蹄疫対策について

一、宮崎県での口蹄疫発生により、本町においても5月の子牛せりが中止され、7月せりも目途が立っており

ず畜産農家が不安な状態にある。せり中止による損失はいかほどか。また、その支援策等について伺います。

町長 損失額は、約2,343万円と思われれます。5月出荷予定の子牛を対象に、飼料を2袋助成と優良雌牛導入に対して町単独の1,000万の特別家畜導入基金を造成する計画をしております。

議員 二、口蹄疫対策本部を設置し、今後の対策等について協議すべきと考えますが、町長の見解を伺います。

町長 中央家畜保健所大島支所に現地防疫対策本部があり、また大島地域口蹄疫連絡協議会が設立されましたので、関係機関と連絡を密に取りながら対応を検討したいと考えております。

口蹄疫対策として全車両の消毒作業を実施する職員
(名瀬新港にて)



議員 三、今回の事態を機会に、本町畜産業の実態を見直し、今後の畜産振興に向けて「肉用牛生産計画書」等を策定すべきと考えるが、町長の見解を伺います。

町長 瀬戸内町長期振興計画、鹿児島県酪農・肉用牛生産近代化振興計画書により策定していますので、この計画書を基に畜産の安定的な経営を推進して参ります。

す。

議員 農業・水産業振興について

一、本年度施政方針で、集落単位の地場農産物の生産奨励、地産地消の推進に努めるとあるが、その具体策について伺います。

町長 直売所設置地区及び町内出荷を目的とする営農グループを対象にした園芸講習会の実施、直売所運営、販路開拓等についての情報提供を行っております。また朝市の支援、学校給食等地域食材料用促進について検討して参ります。

議員 二、「資源管理型漁業」への転換、漁業資源の有効活用を図り、生産性の高い安定した水産業の振興策を図るとあるが、その具体策について伺います。

町長 放流事業の実施、漁業資源の有効利用として加工品の開発、魚食普及活動の推進、養殖事業を中心とした、より生産性の高い安定した水産業の振興策を図っていきたいと考えております。

議員 三、振興策が現実のものになるには、生産から販売までを手掛ける専門の人材育成が必要不可欠と考えるが、町長の見解を伺います。

町長 本町と包括連携協定を締結している東京農業大学と地元関連事業所と連携を図りながら特産品研究開発を行い、地元で試作品の完成と生産を予定しております。また、特産品生産販売へ向けての市場調査及び販路開拓等を行う予定であります。



渡島芳臣議員

議員 かけるまについて

加計呂麻の伐採に関し、町有林はすでに売却されている等々、誤った情報が広がっています。

町民に正しい情報を説明し誤解を説く必要があります。お考えをお尋ねいたします。

町長 加計呂麻の山林の伐採の件であります。私林の売買については把握しておりません。また、町有林については売却等は行っておりません。

議員 農家育成について

本町の各種作物の専門指導員は配置されているか、また、所得向上に向けた定期的な指導を行っているか、お伺いします。

町長 農家育成につきましては、町農業振興会の部会

活動を中心に農業の基礎知識、栽培技術及び経営管理等の研修を野菜、花き、畜産、養豚、さとうきびの各分野で専門指導員を配置し、農協、県農政普及課と連携を取りながら進めております。

議員 宮崎県で発生している家畜のウイルス性感染症口蹄疫対策の現状と今後の取組みについてお伺いいたします。

町長 中央家畜保健所大島

支所に現地防疫対策本部があり、5月には大島地域口蹄疫連絡協議会が設立され

ましたので、関係機関と連絡を密に取りながら対応を検討しており、本町でも口蹄疫緊急対策会議や消毒薬の配布、消毒マットの設置等に取り組んでおります。

議員 フェリーかけるま存続について

島民にとりまして無くてはならない定期船でありまして、耐用年数を含め、今後の対応をお伺いします。

町長 「フェリーかけるま」

の耐用年数は14年となっております、すでに耐用年数が2年を経過しております。

当面は、現状船舶を整備しながら運行していきたいと考えており、今年度より立ち上げます瀬戸内町船舶交通事業運営委員会（仮称）

において検討を行って参ります。

議員 待合所から船舶まで雨に濡れない屋根付き歩道の計画はないのか、お尋ねします。

町長 屋根付き歩道設置に

より、真夏の炎天下、強い風雨時に乗降者の安全性や利便性の向上が図られるので、大島支庁瀬戸内事務所へ要望して参ります。



今後の対応が注目されるフェリーかけるま



鎌田愛人議員

議員 瀬戸内町新集中改革プランについて

一、地区コミュニティ担当職員の配置の今後の進め方について伺います。

企画課長 3年間についてはモデル地区を中心に、

それから順次広げていくという形をとりたいと考えています。

議員 ニ、イベント等の見直しについて、町長の見解を伺います。

町長 各団体で運営ができるよう指導していきたいと考えております。

議員 三、組織・機構再編について町長の見解を伺います。

町長 事務改善審議会で十分協議し、年次的に課局の統廃合を視野にいれた作業を進めてまいりたいと思っております。

議員 加計呂麻島チップセンターについて

新たな動きが展開されようとしているが、今後考えられる事態について、町長の見解を伺います。

町長 伐採申請が提出された場合は、環境省や県の指導を受けるとともに、自然保護審議会や文化財保護審議会等を開催し、これらの意見を参考にしながら、環境保全対策等について事業所等に要請して参りたいと思っております。

議員 公開質問状は6月30日に回答する考えがあるのか伺います。

町長 公開質問状は回答し
ます。

議員 教育・文化・スポーツについて

古仁屋高校への町独自の支援策として、吹奏楽部の楽器購入助成と特別な活動となっている相撲に対する助成は出来ないか伺います。



町独自の支援助成策が望まれる
古仁屋高校

町長 古仁屋高校の存続につながって来ると思います

ので、学校から上がってきたら検討し、話し合いをしていきたいと思えます。

その他の質問

自衛隊関連について（海上自衛隊の拡充、上陸輸送艇の代替船の配備、国分陸上自衛隊参加の大規模防災訓練の実施）

教育関連施設について（中央公民館、学校給食センター、古仁屋小学校体育館、阿木名小中学校体育館の建て替え、屋内ゲートボール場の整備促進）



岡田弘通議員

議員 産業の振興と雇用対策について
建設業者の副業経営への

促進について、現在どのような取り組みをされているのか、また、町が主体となり取り組むべきと思うかどうか。

町長 宇検村、大島支庁瀬戸内事務所、建設業協会等と連携し、町が主体となり異業種参入の研究会（仮称）を7月には立ち上げるべく準備を進めており、6月10日には、関係者を集めて事前協議を行ったところであり

ます。

議員 他町村同様口蹄疫に対する畜産農家への支援対策をすべきと思うが、町長のお考えを示していただきたい。

町長 5月出荷予定の子牛を対象に、飼料を2袋助成と口蹄疫の影響により経営が圧迫され、優良雌牛の導

入が困難になることが予想されることから、町独自の特別家畜導入基金（1000万円）を造成する計画です。見舞金についても前向きに検討いたします。



口蹄疫問題で早急な支援策が望まれる畜産農家

議員 町政全般について

町長の任期は、残り1年であり任期4年を締めくくる最重要課題として取り組んでいる施策について伺います。

また、人口増対策のための定住促進条例の制定と雇用経済対策としての下支えの為、公共事業費の増額をす

べきと思うかどうか。

町長 本町の財政は、ここ数年で25億円の借金を返済するなど地方債残高は減少しているものの公債費の構成比率は依然高く、財政の硬直化が進み、景気後退による町税等の自主財源が減少するなど極めて深刻な財政危機に直面しております。このような状況を踏まえ、『瀬戸内町新集中改革プラン』に基づき組織のスリム化や人件費・公債費等の義務的経費、投資的経費の縮減を図りながら職員の意識改革を促すとともに、国保会計等各特別会計の健全化に努めることが将来を見据えた最重要課題のひとつだと思えます。

今年度取り組む主なものとしては、クログロやマベ真珠等の未利用資源の有効活用を図るため産官学共

同で研究・開発に努めて参ります。移住体験ツアー等を活用して移住交流・空き家情報等の支援対策を引き続き推進して参ります。



中村義隆議員

議員 地方分権・地域主権・補助金制度から交付金制度へ移行されるものと思われ地方の政策力が最も必要となるが、適切な町政運営を図る為の町長の考えについてお伺いします。

町長 今後は、長期振興計画・過疎計画等や時代の変革にあわせた新たなニーズについても企画課が主体となり事業計画を策定し政策力を高めることが必要であると考えており、勉強会等を開催し、日々研鑽を重ねながら新たな住民ニーズに添えていきたいと思えます。

議員 新聞を読んで

— 2011年3月に九州新幹線が全線開業になりましたが、本町の取り組みを伺います。

町長 九州新幹線全線開業

による、本町の取り組みについては、本年3月に福岡での旅行エージェント、新聞、雑誌等マスコミへのPR活動及び教育旅行等の誘致活動を実施するとともに観光パンフレット、ポスター等の発送による集客活動にも取り組んでおります。今後このようなPR活動を積極的に実施していきたいと考えております。

議員 二・ふるさと納税制度も3年目に入ったが、当初の話題性が薄れ認知度もアップしたとは思えないが、今後の周知方法と課題を伺います。

町長 本町においては、「瀬戸内町ふるさと応援基金条例」を制定し平成21年度からホームページへの掲載や各郷友会等へパンフレットを配布するなどして、本町への直接寄付を募っています。今後の周知方法としては、町の観光大使へも「ふるさと納税」についてのPRを依頼したいと考えております。なお、ふるさと納税制度の課題につきま

しては、税控除される額が個人住民税所得割額の1割程度となっており、寄付者本人が税務署で確定申告をする必要があることなどが挙げられております。

議員 三・家畜の伝染病、口蹄疫対策について、本町の防疫体制や支援策をうかがいます。

町長 5月出荷予定の子牛を対象に飼料2袋の助成と口蹄疫の影響により経営が圧迫され、優良雌牛の導入が困難になることが予想されることから、町単独の1000万円の特別家畜導入基金を造成する計画です。

5月に大島地域口蹄疫連絡協議会が設立されましたので、関係機関と連絡を取りながら対応を検討したいと考えており、本町でも口蹄疫緊急対策会議や消毒薬の配布、消毒マットの設置等に取り組んでおります。

議員 教育行政について

教育長 空き教員住宅の目的外使用については、幾度となく論議されておりますが、結論が出ていないのが実状です。少子化等により児童生徒が少なくなれば学校の休・廃校も増え、空き教員住宅は増え続けるので、今後も公共施設の有効利用及び地域活性化という観点から転用及び民間への貸与も含め、再利用について積極的に進めていきたいと考えております。

有効活用で地域活性化につなげたい空き教員住宅



委員会活動

第2回(6月)定例会では、活力あるまちづくり調査特別委員会(岡田弘通委員長)に付託されていた案件に対しての委員長報告がなされました。

(要旨は次のとおりです。)

活力あるまちづくり 調査特別委員会

『議会改革について』 調査報告

平成21年6月に活力あるまちづくり調査特別委員会を設置以来、本町の喫緊の課題である

「古仁屋高校の存続・活性化」、「行財政改革」、「陸上自衛隊の誘致の可能性」、「活力あるまちづくり対策」について調査を行い、これまで4回の報告を行ってきましたが、今回は、最後の調査事項である「議会改革について」調査を行いました。

まず始めに、県内で最初に議会基本条例を制定した薩摩川内市を調査しました。薩摩川内市は、平成16年

10月12日に川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村の1市4町4村が合併し発足しました。

議会基本条例は、二元代表制の下での市議会の果たすべき役割、多くの重要課題を抱えた中での市議会としての姿勢、今後の方向性等を議論する中で、議会改革の必要性が認識され、合併後5年目の平成20年9月26日に制定、同年10月12日から施行されたとのことであります。

基本条例は12章で構成され、条例の特徴は次のとおりです。

1. 市民の負託にこたえる、親しまれる、開かれた議会の実現(第1条)
2. 市民に分りやすい言葉を用いた説明、市民の傍聴意識を高める議会運営(第2条)

3. 会派の定義(第4条)
4. 請願及び陳情を政策提案と位置付けること及び提案者からの意見聴取(第11条)

5. 市民との意見交換による政策提案機能の強化・拡大(第11条)

6. 施策時の形成過程等を明らかにするための市長等への7項目の説明要求(第13条)

7. 政務調査費に係る市民に対する説明責任(第16条)

8. 市議会の広聴広報活動の充実(第19条)

9. 議員定数改正に当たっての市民からの意見聴取(第20条)

10. 議員報酬改定に際しての市議会としての意見反映(第21条)

11. 最高規範性(第22条)
12. 見直し手続き(条例改正)(第23条)

この条例に基づき、活発な議会活動を行っていることでありました。以上が、薩摩川内市の調査報告であります。



薩摩川内市を調査する特別委員

次に、いちき串木野市を調査しました。

いちき串木野市は、平成17年10月11日に串木野市と市来町の1市1町が合併し発足しました。

いちき串木野市では、議会基本条例は制定されておりませんが、制定に向けて次のとおり議会改革に取り組んでいるとのことであり

ました。

1. 議会報告会の運営方法、課題、効果等について
2. 先進地行政視察の報告会の運営方法、成果と課題について
3. 議員研修会の設置目的、運営方法、成果と課題について
4. 議員の資質向上対策の取り組みについて
5. 議会広報の充実について

議会報告会

この報告会は、市民からの批判や意見・提言等を聴取し、議会運営に反映させるとともに議員は、

準備、運営（説明・回答等）まで行うことで意識の変化につながっている。

市民からの意見要望を受けた一般質問が多く行わ

れた。

広く各地域の現状や課題に対する理解が進んだ。

先進地行政視察調査報告会

視察調査報告会を開催することで、議員全員で情報を共有でき、一般質問が多行われた。

議員研究会

財政問題研究会を設置し、財政状況や財政制度の研修を毎月1回行い、市民に分かりやすい情報の提供や説明責任を果たすため、資質向上に努めている。



いちき串木野市を調査する特別委員

議会広報

議会への関心と信頼を高めるとともに市民への説明責任を果たすため議会情報の提供のあり方について調査研究し、議会日より、議会ホームページの充実に努めている。

以上が、いちき串木野市の調査報告であります。

本町の議会改革については、先例地調査、町内の各種団体及び町職員からの意見・提言等を踏まえ、改革できるものは、6月議会から実施することにしております。

議会基本条例の制定については、国・県や各地方議会の動向を見極めながら、常に研究検討すべきであると一致したところであります。

議員定数（10名）については、住民から様々な意見もあるので、真に住民の福

祉の向上に込める議会としての定数のあり方について、研究検討すべきであると一致したところであります。

これから、益々変動する社会情勢に常に適切に対応するため、我々地方議会の責務の重要性を全委員が痛感し、認識を新たにしたいところであります。

今後は、本町の活力ある町づくりのため、二元代表制である地方議会が一体となり、監視機能の強化、議決機関としての役割、また、政策提言機関としての機能を充実し、「分権時代にふさわしい地方議会」として活動していくことを決定しました。

なお、町当局においては、当特別委員会からのこれまでの意見等について、速やかに確実に実行されるよう強く要請し、報告を終わります。

～ 議会を傍聴しませんか～

次回の定例会は9月に行われます。どなたでも傍聴できますので、

お気軽に議会事務局へお問い合わせ下さい。(72 - 1072 直通)

奄美群島市町村議会議員大会

第53回奄美群島市町村議会議員大会が、5月19日に大和村で開催されました。

大会では、大島本島南部三町村（大和村、宇検村、瀬戸内町）共通議題として、「地籍調査事業の推進と助成措置の見直しについて」を提出、本町の向野 忍総務経済常任委員長が提案理由説明を行い、採択されました。



大会決議の朗読を行う堯議長(左)、提案理由説明後、再度説明を行う向野議員(右)



本町経済の活性化のため

- 申し入れ書を緊急提出 -

本町議会は、喫緊の課題である経済の活性化及び定住促進を図るべく、下記事項の申し入れを町当局に行い、速やか且つ確実に実行されるよう強く要請しました。

記

1. 口蹄疫に対する畜産農家の経営安定を図るため、郡内の他自治体並みの見舞金を支給されるとともに、防疫対策について万全の措置を講じられたい。
2. 地域経済活性化の下支えのため、公共事業費の増額を図られたい。
3. 教員空き住宅の有効活用を早急に図られたい。

編集後記

7月11日に行われました参議院選挙では、各党とも地域主権・地方分権などのマニフェストを掲げ、今後ますます私たち地方議会の重要性・政策立案能力が問われて来るものであると考えます。

6月定例会におきましては、一年間に及んだ『活力あるまちづくり調査特別委員会』の最終報告があり、議会改革について10名の議員で活発な議論をし、県内でも初めてとなる新しい会議規則や申し合わせ事項を決定する事ができました。

今後も、町民の皆様の意見を頂きながら、読みやすい議会報を作成してまいりたいと思っております。

暑い日が続きますが、健康にはくれぐれもご留意下さい。(林)

議会報編集委員長 向野 忍

副委員長 鎌田 愛人

委員 堯 文俊

岡田 弘通

林 健二

吉見 洋和